

浦賀文化

平成 29 年 (2017 年) 4 月 1 日

第 49 号

Email:uragabunka@yahoo.co.jp

浦賀コミュニティセンター分館 三十五年のあゆみ

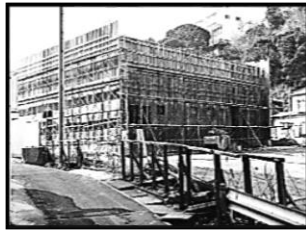
当館は昭和五十七年(一九八二年)四月、旧浦賀ドックの迎賓館であった表俱樂部跡地に、浦賀地域の歴史と文化に関する学習の場として建設されました。横須賀市で最初の本格的な常設展示を持つ文化センターとして貴重な文化財を展示する一方、浦賀公民館(現浦賀コミュニティセンター)の分館と位置づけ、公民館の機能を併せ持つ施設として誕生しました。昭和五十七年の開館記念特別展を皮切りに毎年(平成三年度から隔年)行われている特別展は、今年度で第二十四回目を迎えます。昭和六十一年の第四回特別展「幕末の浦賀与力・中島三郎助の活躍とその生涯」開催を契機に、翌年、常設展示室に中島三郎助資料館が増築されました。また、平成二十六年十一月に展示室のリニューアルを行い、浦賀の歴史がよりわかりやすく、さらに親しみやすい展示室となりました。

現在は、サークル活動や浦賀の郷土史研究等、地域の文化活動の拠点として様々な方にご利用いただいています。



現在

浦賀コミセン分館 今昔寫眞館



昭和 56 年 建設時



昭和 10 年代 浦賀ドック表俱樂部

展示物の紹介

【中島三郎助に関するもの】
肖像画、中島家写真、家系図、遺言状、書簡、与力宅間取り図、短剣(レプリカ)

【模型】
浦賀奉行所、船番所、幕末の西浦賀の街並成臨丸、鳳凰丸、黒船(サスケハナ)、タンカー(パトリア/製造:浦賀ドック)

- ・浦賀ドック関連資料
- ・干鯛(ほしか)問屋、廻船問屋関連資料
- ・江戸時代の食器類
- ・異国船、ペリー来航関連資料
- ・土器、石器(上の台遺跡)
- ・浦賀・中島三郎助・浦賀ドック年表
- ・鏝絵(地元左官職人による作品)
- ・映像・資料コーナー など



浦賀奉行所開設
三百周年に向けて

三年後の平成三十二年(二〇二〇年)に、浦賀奉行所が開設されて三百周年の記念の年を迎えます。

浦賀奉行所は、江戸湾の防衛の要地、海の関所として、また、ペリーの黒船来航の舞台として日本の歴史上たいへん重要な役割を果たしてきました。

三百周年の節目の年に向けて、地元を中心に多くの方たちが動き始めています。

浦賀・鴨居地域運営協議会や、浦賀観光協会、浦賀奉行所復元協議会などの団体で活動が活発になってきました。

どのような記念事業が行われるかは、まだわかりませんが、一過性の盛り上がりだけでなく、これを機会に、地元浦賀の歴史を一層深く知るきっかけになればよいと思います。

- ★ 特別展ダイジェスト ★
 - 第1回 昭和57年度
海つきの村・鴨居の漁具とその生活
 - 第4回 昭和59年度
幕末の浦賀与力・中島三郎助の活躍とその生涯
 - 第9回 平成元年度
写真でみる浦賀の今と昔
 - 第13回 平成7年度
見なおそうふるさと浦賀
 - 第15回 平成11年度
絵図に見る浦賀の移り変わり
 - 第16回 平成13年度
異国船の渡来と浦賀
 - 第17回 平成15年度
ひなから見る浦賀の人々
〜子供の成長とときたり〜
 - 第20回 平成21年度
成臨丸と浦賀
 - 第23回 平成27年度
浦賀奉行所から横須賀製鉄所へ
〜浦賀の繁栄とわが国の近代化〜
- ※特別展の詳細については、横須賀市のホームページをご覧ください。

俳句の散歩道

総集編

一昨年より募集を始めた「俳句の散歩道」は、みなさまの協力のもと二年の月日が経ちました。浦賀散策の折に、サークル活動のついでに、節目や地域行事の度にと多くの方に投句していただき、投句者数は六十三名、応募総数は二百八十二句となりました。

ご投句いただいたものの中から、春夏秋冬に分けてご紹介します。(投句順)



開国の歴史真つ赤な落椿 殿木和三人
意地とほす木鶏蝦夷に散るさくら 大塚遊球子
浦賀なるドック跡地のすみれかな 高畑 久雄
沖で鳴く霧笛に春の目覚めかな 手塚登喜子
花ぶぶきまでも行かんが春の風 服部 幸子
夜櫻の水面にうつし扇湾 中川 岳紹
勝海舟断食跡とや山笑う 新田 和江
菜の花や函館はるか愛宕の碑 田島清一郎
一湾の綺羅を展べたる二月かな 土部 千恵
子は遠きものと仰げり花曇 日置正次
木鶏の墓石の上の落椿 雅菜川弘志
探梅や浦賀の町は寺多く 鈴木 利男
靡なる大気震わせポンポン船 渡辺 初子
船あまた浦賀水道春霞 杉井 幸枝
ツツジ咲く浦賀湊の汐かおり 佐藤 佳子



ペリー祭友好結びし三郎助 廣川 千鶴
碧血や五月流る、浦の親子鷹 小竹 兼二
万緑や愛宕の山の坐禅石 石川 優子
葉桜を天蓋として鉄幹碑 田島 耕史
紫陽花の一本道が海となる 高野 公一
陸軍棧橋海月が戻ってきておりぬ 芳賀 陽子
浦賀道遙往時をいまに夏の海 難波 俊子
ででむしのいそぎ乗り込む渡し船 藤澤 恵波
草河豚の脈動輪廻の時來たる 長谷部知子
歓迎の一と揺れ梅雨の渡し船 山老 成子
こま犬の眼をのがれたる梅雨すずめ 小倉 正樹
初吟行ポンポン舟や梅雨曇 飛奈 珠江
浦賀的に歩いて午後は濃紫陽花 山本 敏倅
黒南風や江戸に昭和が建っている 絲布 みこ
黒南風や黒船の沖船よぎる 中岡 昌太
日盛りの町屋にのこるシチュー鍋 肥後 陽子
母方は菊の香りと人の良き 阿部 文彦
晩秋の浦賀開国ものがたり 一井 魁仙
狛犬が子に乳をやる七五三 清水 智
とんぼうの温む与力の招魂碑 藤沢無可有



秋深し歴史探訪浦賀道 野田 和彦
浦風の吾を過客にして澄めり 松井 国央
秋深し古希のドックや同い年 堀家 彰生
鯊舟のひとり社は社の主と言ふ 新井 喜久
爽やかに与力を讃ふ講釈師 尾久美耶子
野分してひたに濡れたる引揚碑 武部 昭
秋晴れに元気に歩く浦賀の地 稲葉 英智
浦町のバン屋にぎはふ小六月 白根 文子
黒船にゆかりの浦賀冬霞 田尻 陸夫
お正月勾玉買って参ります 霜村 啓子
渡し船鷗眠たい春を待つ 金井ひとし
寒風に息吹き運ぶや渡し舟 松方 尚義
佗助に椿談義の句輩 青木あをき
春を待つ心に乗りし渡し船 徳丸 恵子
春を待つ浦賀ドックも浮雲も 阿部 信
冬ざるる槌音消えし造船所 小塚 基和
切岸に房総指呼に石露の花 牛山みつゑ
つるし柿家族の数に剥かれをり 岡川 幸子
寒稽古いまも伝はる理心流 菊川 直樹
箱館や三郎助にはなお遠く 加津 保義
浦賀来て会津の縁思い知る 鈴木 信忠
建国の魂宿る愛宕山 芋 象
東西を渡船がむすぶ扇海 中村 衣子



笑話一題

我が家は猫ハウス

最近のペット情報では猫派が少しづつふえてきているようですが、皆さんは犬派ですか？それとも猫派？
私はどちらも大好きですが、年齢とともに毎日の散歩が大変になり数年前から猫ちゃんだけになりました。
今現在我が家には、昨年末に事情ありの子猫を引き取ったのを加え全部で六匹います。
この子猫がかなりのやんちゃ坊主で部屋中暴れまくり、他の猫たちはどう付き合っているのか戸惑ってしまいましたが、今は少し慣れ、ジャレ合っている様子も見られるようになり、まずは一安心。六匹もいるとそれぞれ個性豊かで面白いです。姉御肌のタマ、図体はでかいのに小心者のクロ(通称ビビりのクロ)、顔がバカ殿様そっくりな気の優しいマロ、甘えん坊のヒメとシヤイなマルの姉妹、そして悪ガキ子猫のトラ。
猫は気ままで、マイペースですが、彼らのそんなところにも毎日癒されています。(金さん)



編集後記

平成十七年(二〇〇五年)に創刊された浦賀文化が次号で50号の節目を迎えます。
横須賀市内でも際立った特色を持つ浦賀の歴史を、多くの方に知っていただくことができるように今後とも紙面の充実に努めていきたいと思えます。

*一歴史語らい座・浦賀は、次号(7月号)から再開します。

